(6)六ツ美悠紀斎田お田植えまつり

①六ツ美悠紀斎田の歴史

大嘗祭は天皇が即位後、初めて行う新嘗祭(にいなめさい)で、新穀をもって皇祖と神々を悠紀・主基(すき)の両田に迎え、収穫祝いと今後の豊作を祈願する宮中の儀式である。京都を中心に東日本を「悠紀の地」、西日本を「主基の地」と称し、大嘗祭に供える米を作る田を斎田という。大正４年(1915)の大正天皇即位の大嘗祭では、悠紀斎田に六ツ美村中島の４反歩(約 3,960 ㎡)、主基斎田に香川県山田村(現・香川県綾歌(あやうた)郡綾川町)が選ばれた。斎田地として選ばれた背景には、耕地整理が完了していたこと、用排水路が整備されていたこと、交通の便がよいことが理由としてあったといわれている。

図2-6-9　現在の悠紀斎田

図2-6-10　大正宮

中島の地が大嘗祭悠紀斎田に決定されると、八幡社社務所が大嘗祭悠紀斎田新穀奉納事務所となり、境内には農具小屋・清斎所・井戸・休憩所・精米所などが建てられた。境内中央北側には悠紀斎田の時に使われた農作業道具を入れた収納庫が今も残されている。また、八幡社社殿の北側には昭和８年(1933)12 月に建てられた大正宮がある。この社には大正天皇が祀られており、以前はお田植えまつりの神事が行われ、お田植踊りが奉納されていた。現在、お田植えまつりは悠紀斎田広場で行われている。

大嘗祭に新米を供納した後も、これを記念して毎年６月第１日曜日に悠紀斎田お田植えまつりとして、長年にわたり保存・継承されている。

②現在の六ツ美悠紀斎田

大嘗祭の終了後も、斎田奉耕者やその子孫、村民有志等によって斎田地は保存され、田植唄を歌いながら踊り、昔ながらの装束・農具を使って苗を植え、その年の豊作を祈願する「お田植えまつり」として続けられている。六ツ美村青年会など地元の関係者を中心に続けられ、昭和 41 年(1966)には岡崎市指定無形民俗文化財に指定された。昭和 47 年(1972)には「六ツ美悠紀

図2-6-11　お田植えの風景

斎田保存会」が設立されそれまでの活動を引き継ぎ、現在まで継承されている。

現在は、悠紀斎田の古跡地に六ツ美地域の歴史や文化財などを紹介する六ツ美歴史民俗資料室を核とし、六ツ美地域の歴史・文化の保存と伝承、地域交流の拠点となる地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」が整備され、平成 26 年(2014) 2 月に全面開館した。斎田は悠紀の里の悠紀斎田広場に移設された。

図2-6-12　お田植踊り

お田植えまつりの当日は、事前の祈願祭が八幡社で行われる。斎田広場では午後 2 時から神事が執り行われ、神官により五穀豊穣などを祈願する内容の祝詞が読まれ、参列者による玉串奉奠が行われる。祭りは式典の後、お田植唄に合わせて、地元婦人会や小学校女子児童によるお田植踊りが披露される。お田植唄の拍子に合わせて斎田周辺を早乙女が踊りながら練り歩き、実際に苗が植えられていく風景は、大正時代から受け継がれてきたものである。平成 27 年(2015)には悠紀斎田 100 周年を迎え、記念式典が秋篠宮同妃両殿下の御臨席のもと盛大に開催された。100 周年記念事業を開催するにあたっては、平成 24 年(2012)に地元で実行委員会を立ち上げ、六ツ美地区が一体となって準備を行ってきた。お田植えまつりを継承することにより、稲作文化の伝承、地域交流・地域活性化を図っている。

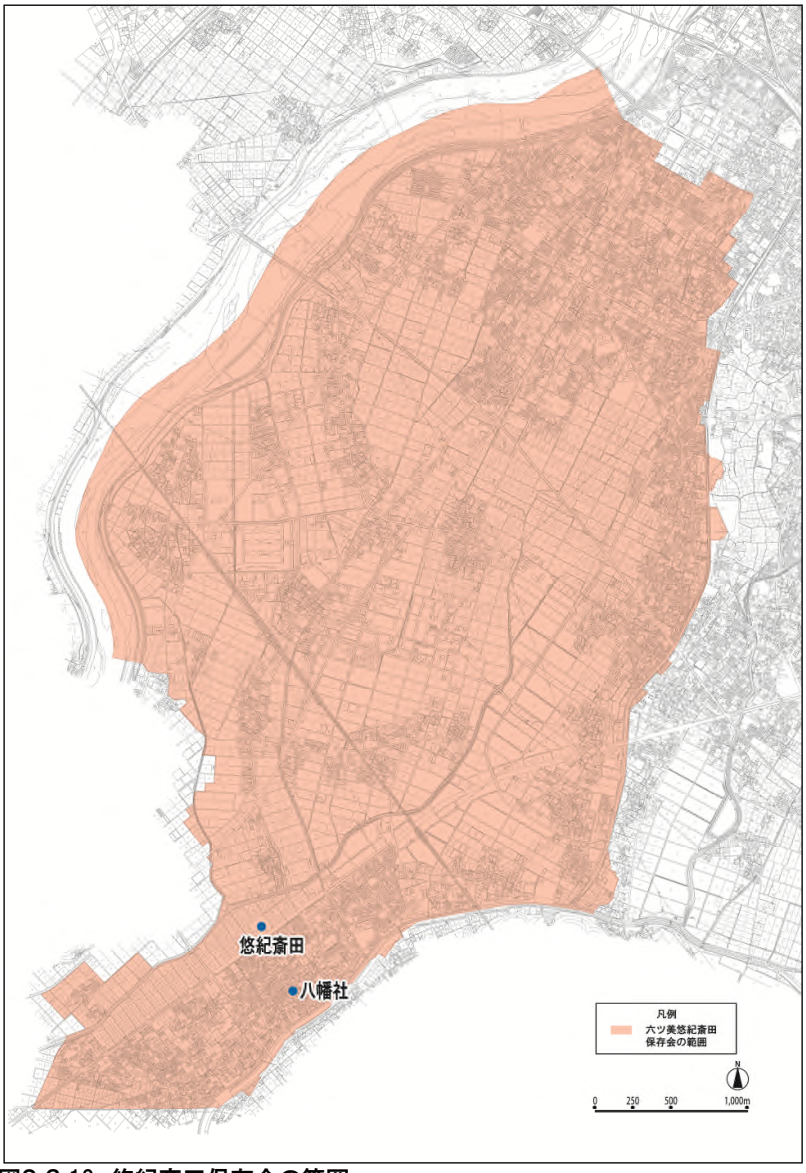

図2-6-13　悠紀斎田保存会の範囲